基礎講座

「なりたい社協ワーカーになろう」

各分科会における報告は、他の人に任せることにして、私は、今回のつどいで拾った、「考えさせられるフレーズ」あるいは、「今後の社協活動のキーワード」を紹介して報告に代えたい。

○社協活動の根底にながれているのが権利擁護。

○（問題を）発信できない住民の存在……そういう人たちに社協がどうかかわって環境づくりを進めることができるか。

○動いている社会状況の中で、動きのある社協に。

○当事者の主体性、自己決定を見極め、段階を揚げていく見定めを。

○「初期相談」におけるニーズ把握が十分でないと偏った対応となってしまう。その能力が問われる。

○制度には限界があるが、相談には限界はない。まずそこからのスタート。

○悩み事を捨てるごみ箱として社協があってもよいのではないか。

○公的社会福祉の拡充が必要。

C・Oを通じて住民福祉運動化を。

○住民主体形成で介護保険の検証を。

○社協や地域の組織を変える「人」になろう。

○存在感のある社協、リーダーシップのある社協に。

○中から変える、変えられる力が社協にはあるのか！

○補助金を受けることが「依存的」ではない。「自己決定」、「自己責任」がとれるかが問題ではないか。

○暮らし続けられるまちづくりは、介護保険の枠組みにとどまるものではない。

○社協活動は、「仕掛け」が大事だ。

○社会的な社協の役割を求めて、「社協フォーラム」の開催を。

○社協職員は「学習」が不足している。他の職種（保健婦など）は、手弁当でいろんな学習会に参加している。その点社協職員は甘えているのではないか（学者弁）。そのことが住民を鵜飼いの「鵜」にしてしまう原因をつくってしまうことになるとすれば……

第7回全国社協職員のつどい

レポート

小郡市社会福祉協議会
能塚　治一郎

第1分科会「介護保険時代でも地域の住民福祉活動の根っこは変わらない～住民の暮らしにいきづく福祉のまちづくり研究～では、4人の発題者の意見を聞き、グループディスカッションを行った。参加者は三〇数名と想像したより少なく、4つの班に分かれ、私の班には基調提案をされた京都府宇治市社協の岡野実行委員長や分科会発題者、分科会司会者、分科会報告者、パネルディスカッションのパネラーがいて、残る若いものでいつものごとく司会・書記・発表者を決めなくてはならず、必然とどれかにならなくてはならない状況で一番楽と思われた司会を買って出た。とは言え、熱い議論をまとめるには苦労し、実際にはまとめる話でもなく、何もしていない状態でした。

さて、寝屋川市社協の高橋さんの発題「社協における介護保険事業（居宅介護支援事業）とは？」

小地域福祉活動・ボランティア活動をインフォーマルの社会資源化としサービスとしてどう組み入れるか。安易なサービス供給化の恐れやボランティア・地域住民はどう思うのか、社協の技量が問われる。社協の介護支援専門員のあるべき姿として、インフォーマルサービスといわれるボランティアや小地域福祉などの情報の共有化やネットワークの重要性を説き、「寝屋川市ケアマネージャーの会」の発足について説明された。

わが班ではボランティアや住民活動をインフォーマルなサービスに組み入れられることの是非について意見があったし、私も納得できず消化不良のままだった。

次に、京都府東山区新道学区社協折田さんの発題「私が社会福祉活動にかかわった『きっかけ』と、その喜び」では、民生委員活動を通じ「老い・死・生きる意味」を考えるようになり、「孤独死」に遭遇した時、地域の問題を肌で感じたそうで、地域を担う区社協の役割として、地域に精通した区社協から住民の声を聞き、社協職員は情報収集することが必要であり、介護保険下での社協の役割は介護認定で自立と判断された方、一人暮らしや高齢者

世帯に発生する問題に対し、どう取り組むかが求められてくる。

医療の進歩と共に「長寿・長生き」という貴重な対価を得た人達が現代の社会ではマイナス要因と判断される風潮に見舞われ、社会に委ねることへの負担感を持ち、遠慮しながら生きていかなくてはならない。この現状を地域、コミュニティ単位で考え、その対策を講じないといけない。なぜなら、今の社会は、核家族化が進み、地域に暮らす高齢者とそこに住む若い世代に関わりが存在しない、若い世代は自分ごとは捉えていないのが現状で、いずれは自分達の問題でもある。若い世代は、豊富な経験者である高齢者を社会資源として活用する方策を見つけ、考えるべきである。それが高齢者にとっての生きがいにも結びつき、社会とのつながりを持ち、コミュニティで暮らす意味を持てる、とのことでした。

大阪府豊中市社協勝部さん（とても元気な女性で小地域ネットを担当され地域に出てバリバリ活動されている素敵な方でした）の発題「介護保険でどうする？どうなるの」

豊中市社協では、ヘルパーなどの委託事業はやっておらず、介護保険下での今社協がやるべきこと！求められているものについて、NPO団体との座談会の際、これからの社協は

①経営感覚を持ち営利を目的とする社協

②地域福祉活動と介護保険事業者二本立ての宙ぶらりん社協

③地域一本やり社協

④今までどおり何にもしない社協

の4つに分かれるであろうとの話があったそうで、勝部さんに曰く、社協のやるべきことは何か？社協商店に何を並べるか？ヘルパー？地域？ボランティア？等々。商店であれば店主が決めるが、会長が決められるのか？豊中市社協のある理事は、

「社協が経営とはなにごとか！

住民や当事者側に立ち地域の声を聞くことではないのか」

と涙を流し訴えたそうです。言い換えれば、豊中市社協の地域福祉活動のすごさが伺えられます。

さて、二日目、兵庫県社協の藤井さん「これまで財源の裏付けを基に、全社協の説く事業型社協を推進し、事業と職員が膨れ、揚げ句は介護保険にオロオロし、『やっぱり社協の基本は地域だ』といって、地域福祉が簡単に方向転換できるのか！」には痛いところをつかれた。

また、NPO法人寝屋川市たすけあいの会の富田さん曰く、「社協によるけど、社協という看板を背負い、公にも認められる社協職員が地域活動をどんどん推進できないのが不思議だ！できないのならこれからはNPOがガンガンやっちゃうよ！」

以上、第1分科会の報告でした。

第7回全国社協職員のつどい

住民主体を考える基礎講座2000

なりたいワーカーになろう

きっと忘れられない瞬間になる…

浮羽町社会福祉協議会

國武　竜一

若手職員は諸先輩方の話を「へー」「ほー」と感心して聞いている場合じゃない。経験年数は少ないなりにも、そこから感じることがある。そして、そこから伝えなければならないことがある。というところでしょうか。

私は基礎講座（経験年数3年未満者）に参加しました。そこには、全国からの強者（？）のぼせ者達が集結し、またどの顔もホントに若いフレッシュな学生のような中での分科会になりました。

発表者には、京都府弥栄町社協のマシンガントークワーカー坪倉さんから、社協に入った時の「ここはいったい何なの？」という社協から、現在では「あの人（当事者）のために色々やっていいんだな！」ということが分かって実践しているという、ワーカーとしての成長過程の報告が止めどない話（「ねえ！きいて！きいて！」口調）で行われ、圧倒されてしまいました。私の基本姿勢としては、発表者に対して質問が出来るようにしっかりと話を聞き、必ず一つは質問なり、「私はこう思うのですが」という発言をさせていただいてから、後々お近づきにならせていただくという方針なのですが、この時ばかりは「何も言いきらん！」「勢いに負けた」という敗北感？を味わったのでした。まあ、坪倉さんは坪倉さん流で突っ走っていくことでしょうと思いました。

その後ようやく小グループに分かれて、フリーディスカッションができる環境設定が行われ、私を含め5名（女2男3）の仲間内でのお見合いがはじまりました。定番の自己紹介と一言ということで、面々が「○○社協から来ました。○○と言います。～～ですので宜しくお願いします。」拍手パチパチと一通りやるわけですが、やはり第1印象が大事ですので、せっかく福岡県代表？として浮羽町から来ておりますので、そのことを強烈・鮮烈に印象づけなければいけないと、浮羽町妹川（い

もがわ）の自宅を出る前から考えていまして、さっそく花柄の名刺と、一〇年度事業報告書と、一一年度事業計画書と、今年度私が編集して作った「よりあいの手引き」をサッと差し出して、ダンディを装いながら「私はこういう者ですが」とさりげなく振る舞いました。あとは完全に自己満足に浸ってしまい、他人の自己紹介などは良く覚えていませんが、なんとか名前と所属社協くらいはかろうじて暗記しました。

自己紹介後、社協職員といっても職種が違うということから「私は何をする人ぞ」という話しを各々発言して、みんなの意見として「現場の対象者の顔がよく見える、ジャージ姿でもしっかり働ける、市町村社協が楽しい、うらやましい」ということを満場一致を持って採決しまして、後半のグループ討議のお題には「無敵の社協ワーカー」を考えようということになりました。

一区切り付けた後で、第2の発表者広島市安佐北区社協の超ベテランワーカーであられる薬真寺さんより、数々の住民組織化運動の事例（伝聞事例でなく本人が情熱をそそいで実践した事例）の報告が行われ、1人のワーカーがこんなにたくさんの事を起こすことが可能なのか！と、始めはこのおばちゃんは何を発表するのかなと思っていたことから、話しが進むにつれてとてつもなく大きな存在のように思えるようになり、最後は薬真寺さんに薬師如来ばりの後光さえ見えるようになりました（冗談抜きですごいと思えるやり手のワーカーさんでした）。この薬真寺さんの好きな言葉は「出逢いから学ぶ」ということですが、まさに私も今から訪れる出逢いの中からは、どん欲に学べるものは何でも学ばせていただきたいと思いました。

グループ討議は、だらだらと好きな話しをして「はいっ、終了」という訳にはいかないのが欠点で、やはり「無敵の社協ワーカー」像を考えて、具体的に模造紙に示しなさいという義務を課せられてしまい、制限時間との戦いの中でイラストによる漫画チックな社協ワーカーを作成しました。作品の善し悪しは別として、我々グループでは、アンテナをいっぱい張った、熱い心を持った、体力を持った、動き回れるワーカーを書きました。まるで具体的ではないのでこれ以上深く言及しませんが、まあありきたりと言えばありきたりの出来でした。ただ、我々とは別のグループの強者達が「社協家家訓」なる5ヶ条を提示して、皆の心をかなり揺さぶりましたので、若人の分科会を代表して全体会報告の方にノミネートされました。

読者の方は心してサラッと読んでもいいですので、真摯に受け止めていただきたいと思います。

社協家家訓

一、アンテナを広げて
　探そう住民ニーズ
一、電話出たあなたが
　社協の窓口です
一、昨日より一つ増やそう
　市民の笑顔
一、一人でもあなたの
　悩みは権利です
一、私たち二枚目
　じゃなく三枚目

ということで、当たり前といわれればそれまでの事なんですが、社協ワーカーの基本的考えとしては、若輩者達だんだんわかってきたなとご評価いただけるでしょうか。

兎にも角にも、ロークオリティかもしれませんがハイパワーなエナジーを感じるにはとても良い機会であったことはまちがいありませんでした。同じような『情熱』や『悩み』などを持った、全国のエージェント達との出逢いは大きな財産になりました。皆さんも是非参加してみて下さい。参加費・宿泊費・宴会費以上に得るものは大きいと思いますよ。

第7回全国社協職員のつどい

うわさどおりの楽しい関コミ

桂川町社会福祉協議会
山本　和恵

一度は参加してみたいと思っていました関コミ主催の全国社協職員のつどいに行ってきました。

レポートの提出をすっかり怠っていまして、録音してきたテープを聞きながら改めて「刺激を受けた二日間」を思い起こします。

分科会は、当日無理を言って変更し

てもらい、第1分科会「介護保険時代でも地域福祉の根っこは変わらない」～住民のくらしにいきづく福祉のまちづくり探究～に参加させて頂きました。印象に残った言葉は、

・負けるとか勝つとかではなく、困った人の声を大切にする
・会長さんを通して声を聞くのではなく、脇で働く方々と直接話をする
・当事者の方にアイデアをもらいながら、共に企画を立てる
・同じものを見て課題と感じることができる感性を持つ
・関わる人を増やし、お客さんを作らない
・情報、人、相談があふれているのをいかに活かしきるかは社協職員にかかっている
・ケアプランは八五項目の「できない事」のチェックのマイナスイメージからスタートするが、できることを引き伸ばして、その中から生活を創造していくことが大切

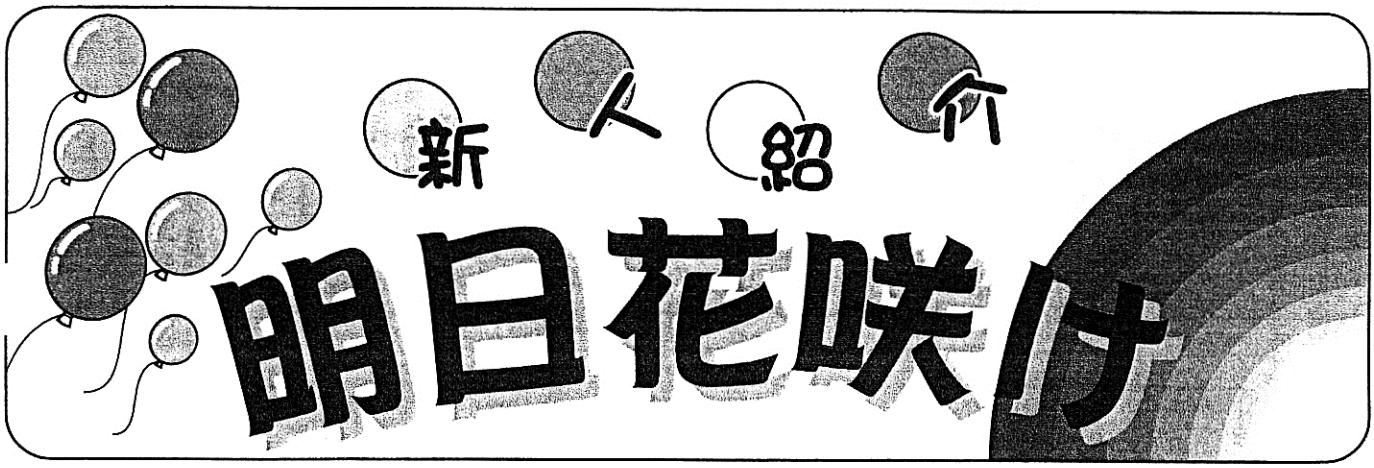
その他の分科会は、全体会での報告しか聞けませんでしたが、「悩みや困った事は多いが、あえて理想を出してそのギャップの中から解決策を考えていこう」等のプラス思考の意見が多く、本当に全て参加したいと思わせる内容でした。

パネルディスカッションに関しても事前アンケート報告もあって、充実したものでした。

実行委員として「福岡県社協職員のつどい」に携わらせていただき、毎日の業務をこなしながら準備をしていくことの大変さを教えられましたが、今回のつどいの参加券や分科会担当者からの資料提供のお願いのはがきが届くなど、細やかな配慮がなされており、関コミの方の熱意と努力に頭が下がります。

夜に行われた交流会でも、昼間の分科会での議論がまた始まり、二次会、三次会へと果てしなく続きました。経験年数の若い方から局長レベルの方、社協職員外の方等、様々な立場の人が遠慮なく語れる。福岡に欠けている部分のように思えました。

参加している誰もが、社協が好きで、大切に考えている。だから自分の事のように真剣になれ、思いを熱く語れる。そして、そんな共通点があるから、初めて出会ったような気がしないのかもしれませんね。陽気で気さく、どこか南米に似ていて、懐かしい気持ちになりました。次はこの記事を読んでくださっているあなたも一緒に参加してみませんか？きっと、関コミの「とりこ」になると思いますよ。



宝珠山村社会福祉協議会　中嶋沙織

・経験年数　一年四カ月
・趣味・特技　球技（今年スノボーに目覚めました）

平成一一年四月に宝珠山村社会福祉協議会へ事務職員として入りました。

福祉に対して知識も経験もない私が住民の皆さんのニーズに応えられるのか不安でいっぱいです。もうすぐ一年が経とうとしていますが、私は与えられた仕事をこなすことで精一杯でした。

正直、社協とは何なのかわかっていない自分がいることは確かです。

でも、もう二年目になることだし、自分なりに社会福祉協議会について理解すること、村の人々に私の顔を覚えていただくこと、そして社協を理解したうえで、今の私にできること、住民のニーズに少しでも応えられるように日々勉強し、努力していきたいと思っています。諸先輩方、ご指導の程どうぞよろしくお願いいたします。

大刀洗町社会福祉協議会　池松 昌亀

・経験年数　一年一カ月
・趣味・特技　酒・パチンコ

昨年七月より大刀洗町社協で事務職員として勤務しています。生まれ育った大刀洗町をどんな地域にしていけるか私の手腕にかかっている、などとうぬぼれ半分、気合十分で頑張っていました。しかし、最初の一カ月はする仕事がない、何をすればよいのかわからない、本当に事務の仕事しかさせてもらえない、などと忙しい毎日でした。

そんな私も今では大刀洗町社協の戦力の五〇％（自称。しかも職員が二人なので…）になっています。毎日パソコンと民生委員さん・ボランティアさん・老人クラブの皆さんの相手で大忙しです。住民のわがままをたくさん聞いてやれるような社協マンになれるようにこれから頑張っていきたいです。

立花町社会福祉協議会　大石 愛子

・経験年数　一年四カ月
・趣味・特技　バレーボール・水泳

平成一一年四月から立花町社会福祉協議会に勤務しています。「社協人」になって一年が経とうとしていますが、果たして自分がどれくらい仕事の内容を理解しているのか疑問に思う今日この頃です。そればかりか、生粋の「そそっかしさ」には磨きがかかり、たくさんの方に迷惑をかけています。

そんな私が、最近になって「社協人（社会人）」として、必要だと思うのが、『謙虚さかつ貪欲さ』です。この一年間、毎日が新しいことばかりで、仕事に体当たりしてきたという感じです。その場しのぎで、周囲から学び取ろうとする姿勢、追及しようとする意欲に欠けていたように思います。

『謙虚さかつ貪欲さ』を二年目のモットーとし、仕事に励みたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

水巻町社会福祉協議会　池田 淳一

・経験年数　一年四カ月
・特技・特技　茶道
・セールスポイント
　セールスポイントがない所がセールスポイントだと思っています。

カリスマ専門員を目指して

社協に入って、早や一年が過ぎました。一年間で、何をやってきたのかと問われると、果たして何かをやったのかと首をかしげないと。いけません

今までは、ある程度、新人ということで逃げていた面も多々、あると思います。しかし、これからは、それは許されません。社協職員として、専門員として、逐一、考えた行動をし、正に「カリスマ専門員」と呼ばれるようになりたいと考えています。

穂波町社会福祉協議会　鬼頭 紀行

・経験年数　一年四カ月
・趣味・特技　スポーツ全般なんでも
・セールスポイント
　たいていの人には好かれること

私が社協に入って、早いもので一年が過ぎました。一年前の今頃は、仕事もわからず、土地柄もわからず、不安だらけでした。（今でもわかったとは言いづらいのですが）

特に、山を二つ越えてこの町にやってきた私にとって、言葉の微妙なニュアンスの違いを聞き分けるのには、今でも苦労します。方言のように、言葉が全くわからないなら、まだよかったでしょうが、全体的には通じる中で、言葉尻での微妙なニュアンスの違い、そこから生まれるちょっとした誤解には、本当に気を使います。

しかし、もちろん楽しいこともあります。手話の会や役場の野球部に入れてもらっていること、一人暮らしの自

分を心配してくれる先輩、地域の方々のありがたさ。多くの人に囲まれて、頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

吉井町社会福祉協議会　生野照美

・経験年数　五年四カ月
・趣味・特技　書道・楽器演奏

こんにちは。吉井町社協の生野です。社協を全く知らずに入ってしまった私ですが、最近、社協はやる気があればいろんな事ができる可能性のある場だなと思えるようになってきました。

社協に入り、多くの方々との出会いがあり、その中でいろんな事を教えていただき、私も少しは成長できたのでは（？）と思っています。（なんと身長は一㎝近くも伸びました！）

私のとりえは、いつも明るく元気なところだと思っていますので、これを生かして、また、一つ一つの出会いを大切にして頑張りますので、よろしくお願いします。

桂川町社会福祉協議会　藤川早織

・経験年数　一年四カ月
・趣味・特技　ドライブ・温泉旅行　パズル作り・弓道

地域担当職員として勤務し早一年。あっという間に過ぎ去った。というのが実感です。

社協はいろんな人と出会い、係わっていく対人との仕事。本当にいろんな人がいるなあと感じています。また、「社協とは何をする所か」の問いに対し、自分なりの思いを現在模索しているところです。そのためには、まず桂川町＝住民のことを知るのが先決だと教わり、多くの人と話しをすることで相手を知り、同時に私の顔・社協のことも知ってもらえるよう心掛けているのですが、長年生まれ育った町なのに知らないことの多さに驚いています。

地域に足を運ぶことがまだまだ少ないのが反省点ですが、「地域に入らないで地域福祉は語れない」、「各地域の人が抱えている課題の声を以下に引き出しどうつなげるか」と教わったことを今後も忘れず、大切にしていこうと思っています。まだスタートしたばかり。これからいろんなことを勉強し、吸収したいと思っていますので、皆さんよろしくお願いします。

桂川町社会福祉協議会　伊藤美奈子

・経験年数　一年三カ月
・趣味・特技　本を読んで料理を作る

平成一一年五月より、桂川町社会福祉協議会の専任職員となりました。最近、結婚して新しい名前になり、社協関係者やボランティアの皆様には大変ご迷惑おかけしています。

今年度から複式簿記への移行ということで、頭の中は、伝票がぐるぐる回って処理に追われています。一生懸命しているつもりでも、別の方法が効果的であることも稀にありますが、今後の役に立てばと思いつつ、同じ失敗をしないように頑張ります。

編集後記

浮羽町社協　國武　竜一

世の中がＩＴ革命と言っているにも関わらず、この『まなこ』は半年も前に行われた『社協職員のつどい』の記事、さらにはそれより前に行われた『全国社協職員のつどい』の記事を載せていることに、「情報が遅い！」とお怒りの方もいらっしゃることと思います。編集委員の私ですらそう思いますので、『まなこ』を心待ち？にしておられる愛読者の皆さんからは、「編集委員は何しよっとか！」と怒鳴り声が聞こえてきそうです。たしかに、各市区町村社協で発行している「社協だより」の記事が、夏場に冬のクリスマスふれあい交流活動が載っていたりすると、おかしいですよね。『まなこ』発行についても同じこと、私たち編集委員会もその辺のところを深く反省しなければならないと思います。

現在、福祉の業界においても、『情報』をいかにして早く入手できるかが、事業発展に欠かせない要素になってきているようです。

新しい正確な情報をいち早く入手して、それぞれの社協活動に活かせるようにするには、情報を発信する側に依存するばかりでなく、情報を受けようとする側もアンテナを積極的に張り巡らせて、色んな所から『耳より情報』を取ってこれる能力を養わなければ、時代の流れに取り残されますぞ。